



貴介問答卷之五目錄

一 聖德太子神國に佛法を施行せしむる如何と云奉初丁メ

一 道にありし吾朝より神道と云ひ震且よハ儒道と

云ひ天竺よハ佛法と云ひく三よ立ハ如何と云奉七丁メ

一本心と吾朝よハ神明と云ひ震且よハ明德と云天竺

にも寂滅と云ハ如何と云奉九丁メ

一 吾國ハ神國ありに神道廢て佛道よかふハ如何と

云奉十三丁

一 兩部習合ハ神道ハ如何と云奉十六丁

一 神儒佛ハ三教共小皆治世ノ道なりと云奉十八丁

一上古より仙人と云ふものあり。中古より。仙人かた如何
しつ事

廿四丁

一大道外より。奴とつふし。つらむなりや。つらむなりや。廿七丁

貴介問答卷之五

○問曰。聖德太子ハ用明天皇ハ皇子。天照太神ノ末裔ハ。吾朝ノ神道ト行ヒ。異朝ノ佛法ト施行セ。事如何。

答曰。聖德太子ハ性質敏ク。聡明ク。故ニ神儒佛ノ三教ニ能通ス。時ト考テ佛法ト施行シ。國政ヲ。了シ。たまふ。然レハ聖德太子。自行シ。わづむ。時ノ勢ヲ。行ヒ。し。ひ。つ。と。恭惟ス。人皇ハ最初ニ。神武天皇ノ時。神徳衰テ。尊ト。稱セ。び。て。天皇ト。改メ。神ト。言フ。す。と。人ト。稱ス。と。ふ。と。天照皇太神。御讓レ。三

種タマの神器タマシ。同殿トウデン。齊サイハハシハシとてトまマるルはハへヘハハ神カミ武タケ天皇テンノウより第九代クニノノナ開化カイカ天皇テンノウまでマデ。神德カミトク漸シビシ残ノコてテ天アメ下ノ無ム為ナリ也ナリ。第十代クニノト崇神スウジン天皇テンノウ最モトモト神祇カミキとト崇重スウシウとト多タくク。國クニ疫疾エキシツ多タ。百姓ヒヤクシヤウ流離リウリ。或シハハ叛者ハンシャありてテ天下テンカ穩ウチカあアらラずス。故ユにニ晨ツト夕ツク興キヨム夕ツク揚ヨウてテ罪ツミとト神祇カミキ一ヒト請コヒ神カミ威イとト恐オソたタりリ。太神サイカミよりヨリ代々タビタビ御相傳ミサダツれレ寶鏡ホウキョウのノ神カミ靈レイ也ナリ。大和國ヤマトクニ笠縫カサヌイ代ノ里ノ。移ウツリわワるルまマるルつツつツ。禁中キンチュウにニ新アラタくク鑄イテ改カヘまマるル。又マタ四道將軍シダウサマウラウ置オキてテ天下テンカ漸シビシ治ナリ故ユにニ第廿代ニジヤウダイ允恭インキヤウ天皇テンノウよりヨリ天下テンカ又マタ無ム為ナリとト治ナリ也ナリ。第廿一代ニジヤウダイ安ヤス康カウ天皇テンノウ在位三年サイイニシヤウ。眉輪王メイリンウ弒コロスるル。是コトよりヨリ。

其故コトハ仁德ニトク天皇テンノウのノ子コ大草香皇子オホクサカノミコ。履中天皇リウチテンノウのノ皇女ミコノメ中蒂姫ナカチヒメのノ皇女ミコノメ嫁ユメてテ眉輪王メイリンウとト生ナまマるル。時トキにニ安ヤス康カウ天皇テンノウ倭臣ヤマトノヒコのノ讒サナヒ以ヨリ用ヒてテ大草香皇子オホクサカノミコとト殺コロすス。其コト妻メカ中蒂姫ナカチヒメとト立テてテ皇后クハクシとト為ナるル。安ヤス康カウ天皇テンノウ意ココロ將浴沐サウヨクしてテ山ヤマにニ宮ミヤをヲ幸イハス。樓ノボにニ登ノボりテ命酒ノボリサケをヲ飲ノボみテ情盤樂シヨク極キマてテ言コト語カクしテ。願ネガふル。皇后クハクシ謂イハふル。汝親睦ニヤミとトいハふル。朕ミコ眉輪メイリン王ウにニ畏オソれル。眉輪王メイリンウ幼少樓下コウシウノカにニ遊アソびテ。悉コトクニ所談モノガタリとト聞クきテ。既スにニ安ヤス康カウ天皇テンノウ皇后クハクシのノ膝ヒザにニ枕マクラしてテ晝ヒル醉ヨヒてテ眠ユムるル。是コトよりヨリ。眉輪王メイリンウ其熟睡シヨクニとト伺ウかヒてテ刺サシすス。時トキにニ廿二代ニジヤウダイ雄略ユウリヤク天皇テンノウとト申マウすス。允恭インキヤウ天皇テンノウ第五子イヒコ。

也。眉輪王乃安康天皇と弒^シ氏聞て大^ニ驚^ニ馬^ノ即^チ兄^ト等
 と猜^ミたまひて甲^ヲと被^キ帶^ハ刀^ヲて兵^ヲ率^テ自^ラ將^トとあり
 て八^ノ釣^ノ白^ノ彦^ノ皇子^ヲ以^テ逼^ラ問^フ皇子^ノ其^ノ害^ヲを
 嘿^シ坐^シして不^レ語^ル天皇^乃刀^ヲ以^テ拔^キて斬^リたまふ。又坂合黑
 彦皇子^ヲ以^テ逼^ラ問^フ皇子^亦被^レ害^スを知^リて不^レ語^ル天皇^乃忿^ニ
 怒^リ弥^チ盛^リ乃^チ并^テ眉^輪王^と殺^スと欲^スて案^ノ劾^所由^ヲたまふ
 眉^輪王^曰臣^元より天^位以^テ未^レと唯^ニ父^ノ仇^トと報^ルる黑
 彦皇子^深所^疑と恐^レて竊^ニ眉^輪王^に語^リて共^ニ間^ト
 得^テ圓^{大臣}乃^宅に逃^ル入^ル天皇^使して乞^フ大臣^使して
 以^テ報^ル日^蓋聞^ク人^臣事^{あり}を逃^レて王^乃室^に入^ル未^レ見

君王^ハ臣^グ舍^ニ隱^ニ匿^ス方^に今^ニ黑^彦皇子^と眉^輪王^と
 と深^ク臣^ノ心^ヲ持^テて臣^ノ舍^に來^リたり誰^カ忍^テ送^ルぬ
 はんや是^レよりりく天皇^益兵^と興^シて大臣^乃宅^に
 と圍^ム大臣^代て願^フ臣^女韓^媛と葛^城乃^宅七^區以^テ
 奉^テ獻^スて罪^と贖^ト請^フ天皇^許たり火^と縱^テ宅^に
 燔^ルふ是^レ於^テ大臣^と黑^彦皇子^眉輪^王俱^ニ燔^ル事
 死^スれぬ時^に坂^合部^連誓^シ宿^祿皇子^と抱^テ燔^死天
 皇^常に安^康天^皇乃^市邊^押盤^{皇子}乃^國傳^ト欲^ス
 と恨^ミて人^と押^盤皇子^に使^シ陽^期狡^獵て郊^に
 野^遊せんと勸^テ近^江乃^耒田^綿紋^屋野^に猪^鹿多^シ

願ハ皇子と野遊カサツキ。孟冬寒風素然之晨サムカサカ。押盤皇子と駿射ハセイル。天皇弓と弯ヒキ。馬と驟ハセ。陽呼曰猪イハリヨク。有リ。く。押盤皇子と射殺イコロシ。皇子ハ帳内チナリ。佐伯部賣輪サヘキハ。とつとめ。死と抱イキ。て。駭惋オホキイダシ。て。及側呼號ヨロヒヨウ。天皇誅十一ヨロシ。月壬子朔甲子ミツノチノチノケ。天皇有司ツカサ。命コトヲオモセ。て。壇タカミクラと泊瀬朝倉セノアサクラに設ミツケ。て。昂オホシ。天皇位アミツヒキヒロシメス。と以カサシ。て。師サカシ。とあふ。誤アヤコシ。て。人ヒト。と殺コロス。衆オホシ。天下誹謗ソシリ。て。言イハク。太惡オホク。天皇也アミツヒキヒラメススラニト。北三代清寧天皇セイサイ。北四代顯宗天皇ケンジュ。北五代仁賢天皇ニケン。北六代武烈天皇ブレツ。申ス。武烈天皇ハ仁賢天皇ハ太子也。仁賢天皇十一年八月ホム。崩ホム。た。大臣平群真鳥ヘクリノマトリノモツハラ。臣專国政モノツクニシラサマ。と擅ホレヒ。し。

て。王キミ。た。ん。ん。陽イハク。多オホク。太子營畢ツクリスマリ。て。自居觸事ラスムユル。に驕慢ウツクシク。て。都ミヤコ。て。臣ウヂ。乃ハ。節ノボリ。あ。是コト。於オケ。多オホク。太子物部鹿モノベノカ。鹿火大連女影媛カヒノオホムスメノカゲヒメ。と致躬メサシ。し。か。ひ。媒オカガチ。と。て。影媛カゲヒメ。ハ宅イヘ。と向ヒ。て。期會キカヒ。ら。う。た。ま。ふ。真鳥大臣男マトリノオホムスメノカゲヒメ。躰ミミ。と曾ソノ。釘ツクリ。あり。太子甫ハシメ。て。躰ミミ。と曾ソノ。影媛カゲヒメ。と得エ。し。心ココロ。事コト。と知チ。あり。て。大オホク。怒イカ。り。速ハヤシ。に。大伴金村連宅オホトモノカネムラノチ。と向ヒ。て。兵ヒコ。と會アヒ。て。計策ハカリ。を。あ。ふ。連ムラシメ。数千兵ヒコキ。と將ヒキ。あ。路ミチ。と徼タム。て。躰ミミ。臣ウヂ。ハ乃ナラ。樂山ヨクサン。戮コロ。し。り。金村連太子カネムラノチノミコ。と謂イハク。曰イハク。真鳥賊討マトリノアヤウシヲ。し。請ヨラ。太子曰能是コトヲ。と安者ヤスシ。ハ連ムラシメ。と在ニ。於オケ。是コト。於オケ。て。大連兵オホムスメノヒコ。と率ヒキ。自將ラ。し。て。大臣ハ宅イヘ。と圍ツク。て。火ヒ。と縱ツク。て。燔ヤキ。真鳥マトリ。

貴人月...

四

大臣乃子弟戮^ラ太子有司^{ツカサ}命壇場^{ミカド}と設て泊瀬^{ハツセ}列城^{ナミキ}に於て陟^{アツヒツキ}天皇位^ニ遂に都^{ミヤコ}と定^ム天皇刑理^{ツツメ}と好^ミ法令^{ミツメ}分明^{ワケ}日晏^{タケ}て坐朝^{ミツル}聞^ク多^ク諸惡^{モロク}と造^{ツクリ}た^ミひて一^{ヒト}の善^{ヨキ}氏^{ウヂ}修^{ツク}ゆる^ニ孕婦^{ユツブ}の胎^{タイ}と割^{サイ}て其胎^ノと觀^ミ人の指^{サシ}甲^{ツメ}と拔^{ヌキ}る^ニ暮^ヨ薺^{イモ}氏^{ウヂ}堀^{ホラ}ゆる^ニ又^{マタ}人^{ヒト}の頭^{カビ}髪^{カミ}と拔^{ヌキ}て樹^キ巔^{スヘ}に昇^{ホラ}ゆる^ニ樹^ノの本^ノと折^{キリ}倒^タて落^フし死^シじ^ニ又^{マタ}人^{ヒト}の塘^{イナ}械^ヒに入^レ流^レ出^ルと三^ツ又^{マタ}矛^ボと以^テ刺^サ殺^{コロス}と快^{タビ}ん池^{イケ}と穿^{ホリ}苑^{ソノ}と起^ヲ禽^{アトリ}獸^ノ盛^シ田獵^{ミカリ}を好^ヨ狗^{イヌ}と走^{ハシ}馬^{ウマ}と試^シ出入^{イデ}時^トと避^サぐ^ニ大風^{ヒヤメ}甚^シ雨^{アメ}に衣^ミ湿^スて百^{ヒヤク}姓^{セウ}の寒^{サム}と忘^{ワスレ}養^{ヤシ}と食^シて天下^{テンカ}に飢^ウと忘^{ワスレ}大^{オホ}に侏儒^{ヒキ}倡^{ヒト}優^{ワサ}と進^メて爛^{ミダ}熯^リを樂^{カハ}と

奇^{アヤ}偉^{シキ}戲^{タケ}と設^セて靡^タ々^{タタ}ハ聲^{コエ}と縱^ホと日^ヒ夜^ヤ常^ニに宮^{ミヤ}人^{ヒト}と酒^{サケ}と洗^ヒ洒^シて錦^{キン}練^{レン}と以^テ席^{シヤ}と衣^キと心^{ココロ}と綾^{アヤ}純^{ジュン}と以^テ心^{ココロ}と多^タ也^{ナリ}第^{ダイ}七^{シチ}代^{ダイ}繼^{ケイ}體^{タイ}天皇^{テンノウ}廿^ニ八^{ハチ}代^{ダイ}安^{ヤス}閑^{カン}天皇^{テンノウ}廿^ニ九^ク代^{ダイ}宣^{セン}化^カ天皇^{テンノウ}三^{サン}十^{ジュウ}代^{ダイ}欽^{キン}明^{メイ}天皇^{テンノウ}と申^{マウ}す^ニ欽^{キン}明^{メイ}天皇^{テンノウ}十^{ジュウ}三^{サン}年^{ネン}冬^{フユ}十^{ジュウ}月^{グヅク}百^{ヒヤク}濟^{セイ}聖^{セイ}明^{メイ}王^{オウ}獻^{ケン}釋^{シヤク}迦^カ像^{ゾウ}經^{キヤウ}論^{ロン}欽^{キン}明^{メイ}天皇^{テンノウ}群^{グン}臣^{シン}議^ギ蘇^ソ我^ガ大^{ダイ}臣^{シン}稍^{シヤウ}目^メ宿^{ソク}祿^{ロク}用^{ヨウ}物^{モノ}部^ブ大^{ダイ}連^{レン}尾^ビ興^{キヤウ}中^{チュウ}臣^{シン}連^{レン}鎌^{ケン}子^シ不^フ用^{ヨウ}三^{サン}十^{ジュウ}一^{イチ}代^{ダイ}敏^{ミン}達^{ダツ}天^{テン}皇^{ノウ}佛^{ブツ}法^{ポフ}と不^フ用^{ヨウ}世^セ二^ニ代^{ダイ}用^{ヨウ}明^{メイ}天^{テン}皇^{ノウ}佛^{ブツ}法^{ポフ}と用^{ヨウ}蘇^ソ我^ガ大^{ダイ}臣^{シン}馬^バ子^シ詔^{シヨウ}以^テ用^{ヨウ}守^{モリ}屋^ヤ勝^{シヤウ}海^{カイ}諫^{ケン}共^{キョウ}用^{ヨウ}ら^レし^ニと三^{サン}十^{ジュウ}三^{サン}代^{ダイ}崇^{シュウ}峻^{クン}天^{テン}皇^{ノウ}以^テ時^ト蘇^ソ我^ガ馬^バ子^シ專^{セン}佛^{ブツ}法^{ポフ}と用^{ヨウ}守^{モリ}屋^ヤ用^{ヨウ}以^テ諫^{ケン}

蘇我馬子

崇峻天皇

是よりりく馬子守屋と悪て皇子達とカラ合
 て守屋以撃其後馬子威勢強盛めて崇峻天
 皇馬子と悪て馬子已て悪と考て天皇以弑
 之とせらる。三十四代推古天皇の時聖德太子攝政
 たまふ。此時佛法と施行して天下代政とす。是
 よりりく考へば吾朝神武天皇より。崇神天皇まで
 十代合六百三十年余。第十一代垂仁天皇より。允恭天
 皇まで十代合五百年余。都合千百三十有余歳唯神
 国根本と守神明の本誓と崇たるとははる。心
 より。悠遠長久と治まら。第七代安康天皇好色

迷て眉輪王に殺してゆいてから。雄略武烈の二
 天皇大に酷刑と行て人を殺は好。天下虐政にして
 治らず。三十代欽明天皇まで十代合て其間漸百
 十九年也。此短く。天下静謐め。心事考まら。下
 第三十三代崇峻天皇の時。蘇我馬子守屋と誅。且
 天皇以殺是。於て神風淪没。人道滅絶とらる。心
 顯然あり。故に第三十四代推古時。聖德太子神風以
 真。人道の滅絶と救とす。術なり。時佛法大綱
 諸苦所因。貪欲為本とらる。人間一切の諸の苦は。貪欲の
 一也。貪欲の根は。皆色より起る。今欲と離。色と棄。無

常の死と知り頻止る。人無欲の時を
 人心備つて。人の道と號り也。何世の乱とわらんや。
 聖徳太子此佛法。此時相應と考て。天下の佛法は
 施行して。政とあつて。震且あつて。五帝三王は時ハ
 王道大に行て。徳化厚し。周の末し及て。天王と蔑
 め。十二の諸侯各威と振ひ。戦国よ及て。七邑となりし。
 秦ハ始皇一統す。覇道よ。奢極る。終つて陳
 勝乱と興し。高祖是と治て。漢と改り。漢の末に王莽
 無道あつて。世と乱。光武是と治て。後漢と改也。後漢
 の明帝ハ時。天竺の佛法。始て白馬寺に入て。漸と

佛法中國よ盛也。是聖道沈淪し。人道廢て。後行よ
 非や。和漢國異し。其揆一也。然則聖徳太子。神
 國よ生て。神道流行し。知らば。非は。時と考る。
 施行し。孟軻曰。苟よ。鉉基。時ハ
 待らば。知恵。勢に乗る。時ハ
 聖徳自行し。時ハ
 ひる。知恵。勢に乗る。時ハ
 問曰。道ハ。吾朝ハ。神道と名づけ。震且ハ
 儒道と名づけ。天竺ハ。佛道と名づく。三ノ道ハ。立
 如何。

答曰道ハ一也其^一則三トカ何^レヨ^レワ^レク。三ノ道立^レ也。先
混沌^ハ一^ノ。天人地^ハ三^ノあり。夫^ハ。日月星^ハ三^ノあり。一物^ハ
上中下^ハ三^ノあり。是^ト統^ハ。皆^ハ一物^也。故^ハ一世界^ハ。和漢天
竺^ハ三^ノ國あり。三國^ハ土地^ハヨ^レワ^レク。風俗^ハ自異^也。其
異^ハ。從^テ多^ク。教^ト立^ル。ヨ^レワ^レク。神儒佛^ハ。三^ノノ道立^レ也。道
三^ノ立^ル。ヨ^レ統^テ。人^ハレ^ハ。天理^ハ一^ノあり。外^ハ。道^ト名^ク。心^モ
レ^ハ。夫道^ハ。み^らる^レ。ト^ハ。下畧^レ言^也。み^らる^レ。レ^ハ。
天人地^ハ。ヨ^レワ^レク。道^ト名^ク。レ^ハ。孟軻^モ夫
道^ハ猶大路^ノ。ヨ^レ然^ラ。豈知^ル。レ^ハ。人^ヤ。ト^ハ。大路^ト。
貴賤^{上下}。共^ニ。知安^ク。道^ハ。レ^ハ。人^モ求^メ。レ^ハ。病^ノ。

志^ハ。ヨ^レワ^レク。レ^ハ。神儒
佛^ハ。三^ノノ道^モ。天地未分^ハ。一^ノノ理^ノ外^ハ。道^ト名^ク。レ^ハ。
心^モ。其^ハ土地^ハ。ヨ^レワ^レク。教^ト立^ル。レ^ハ。心^モ。
心^モ。其^ハ。差^ハ異^ハ。レ^ハ。辨^テ。其^ハ。一^ノ理^ハ。通^達。レ^ハ。心^モ。
心^モ。其^ハ。三^ノ國^共。一^ノノ理^ハ。關^ニ。
心^モ。其^ハ。時^ノノ事^也。一^ノノ理^ハ。充^テ。行^ハ。レ^ハ。何^レノ教^ト。
心^モ。其^ハ。一^ノノ理^ハ。充^テ。行^ハ。レ^ハ。時^ノ。
朝^ハ。天照皇太神。震且^ハ。三皇。天竺^ハ。目盧舍那佛^ノ時^ト。
心^モ。其^ハ。此^ノ時^ハ。世^ハ。朴^ノ民^淳。上^ハ。一^ノ人^ノ心^ト。下^ハ。万^ノ民^ノ心^ト。
心^モ。其^ハ。一^ノノ教^ハ。施^所。レ^ハ。道^ト名^ク。レ^ハ。

老子ハ道ノ道とすべし。常ハ道よりくも。名ハ名とん
 多ハ。常ハ名ノ非也。常ハ道よりくも。一ハ理ノ元也。
 行ハ時ノ分也。されば天照太神ハ天柱とみく。天上と
 治ハゆふ。伏羲氏ハ仰で天文と觀て。一丈と昼く。天
 下治まつ。佛氏ハ阿字とみく。道ハ本とす。皆是一ノ
 全体ノ元也。時ハわくも。一ハ全体と一ノ内也。理氣
 質ハ三ノ自備まら。其三と全行とくも。一ハ全体分るハ
 理氣質ハ三とく故也。吾朝ハ天孫降臨ノ時ハ天柱
 ノ一と三種ハ神器也。分るゆへ。儒ハ中ハ一と知仁勇と
 分。佛氏ハ阿字ハ一を空假中と分。是一ノ三ノ分れら

よわくも。是らも。教ハ一と始まら。吾朝と
 天。天神地祇ノ道也。天兒屋根命。教ハ一也。震且
 ハ三皇五帝ノ道也。孔夫子傳ハゆへ。天竺ハ大日
 舎那佛ハ道也。釈尊ハ一と説たまふ。三國ノ教異なり
 とも。皆ハ道と。曉とも。心ノ教也。凡ハ人生ハ天地合ハ
 神以受事貴賤とく。同一理也。然ハ則何善悪わん
 や。されど。氣と質との二は落く種々不同なり。不
 同より善悪出。されど人ハ善悪ハ氣質より起。三教共
 一。氣質正して。理身ノ性ハ歸さんとの教ハ一
 其性ハ曉とて。吾朝ハ神とみく。震且ハ聖人と

のい。天竺よハ。佛しき。故よ三教共ハ體用一元。顯微間を
く。天地万物同根一体しり。其一体よハ。實ハ一也。
天地の實と。人ハ實と合一せし。事ハ行ハ外
道しり。然ハ三よ教と立しり。畢竟天
地の二ハ外よ。何ハ大道ハ人ヤ。上古より。今日よハ
まじく。一ハ全体ハく。行と大道と名。是道一ハく。三
よ立ハる也。

○問曰。天命ハ本心也。吾朝よハ。神明しり。震且よハ。明
徳しり。天竺よハ。寂滅と説し。如何
答曰。日本震且。天竺ハ。教よハ。本心ハ。名異也。

之も。皆本心ハ實也。説ハ。過さく。本心ハ實と
則ハ。全体也。一ハ全体よ。自三ハ義備よ。吾朝よ
むと。訓ハ。一ハ始と。一ハ中。一ハ終也。始と
理中と。氣終と。質也。神道よ。神明と。一ハ。一
ハ。儒よ。明德と。一ハ。一ハ。佛道よ。寂滅と。一ハ。
一ハ。當也。是ハ。統ハ。むと。一ハ。成と。實と。一ハ。實ハ
行を。道と。一ハ。一ハ。三教共よ。道と。名也。夫吾朝
よ。神明と。名と。一ハ。當と。一ハ。開の畧。天地開と
い。吾國ハ。一ハ。一ハ。國東よ。一ハ。日本と。稱
目ハ。理也。一ハ。道と。立也。目ハ。神ハ。心と。一ハ。人ハ。本心

文王の徳と賛て敬止と。詩や歌なり。人の君として
 ハ仁よ止つて。人臣うてハ敬よ止つて。人子うてハ孝よ
 止つて。人父やうてハ慈よ止つて。國人と交てハ信よ止つて。曾
 子もあつて。天下に平にともハ道と。學ば大學と云大
 學ハ道ハ明德と明よ。民と親よ。至善に止よ。何
 と云ハ。故ハ中國ハ本心と明德と名也。天竺ハ寂滅
 と云ハ。つて當と云ハ。此ハ。上下畧也。あつて
 土也。土ハ質也。質わつてハ。滅と云ハ。つて
 其然の滅と。曉と。道と云國と。西よ。西天竺と。稱
 生者必滅と。ハ。煩惱悉離。心胸寂然と。

心ハ汚濁皆滅と。天心よ。歸て寂滅と云。凡ハ人性ハ本
 心。元寂滅と。煩惱少く。本心と濁也。煩惱とハ。本
 心と煩惱と。惱と。人間ハ。色と貪欲と
 此二より始て。百八の教よ。到ゆ。百八煩惱と。故
 常に百八の念珠と持て。煩惱と捨て。寂滅と。曉と。教
 色欲及一切の貪欲。皆質の欲也。此質ハ。煩惱心と
 とも。凡ハ。煩惱ハ。穢と。世に。故よ。穢土と
 名。煩惱と離て。寂滅心とす。凡ハ。佛心と。清淨に
 て。世小の故よ。淨土と名。佛と凡ハ。夫との。在世と。世に
 二ハ。滅を。曉と。曉と。異也。迷故三界城。

悟故十方空。本來無東西。何稱有南北。と説了。此空と
 曉者、生死事大。無常迅速。ハ理ハ徹シ。夢幻泡影の
 見極ニ。三界城の。色貪皆滅シ。空トクハ。空カハ。
 寂小シ。本分天心ハ實備テ。明故。天生ハ本心と寂
 滅ト名也。是本心ハ曉ト佛ト名。佛此空カ所。寂光
 世界ト立。此空世界ハ善惡邪正ト。賢愚得失
 ト。君臣上下ト。平等ト。寂ハ光。是ト寂
 光ト名。又極樂ト名也。是神道ハ。隱幽ト立。儒ハ無
 極ト。仙郷ト常世ハ郷ト。云ト。若在世ハ時
 滅ハ。曉ラバ。人死ト。亡魂如何ト。清淨ハ寂光

淨土ハ往んや。然則神道ハハ始ト以ク心ト曉。儒
 道ハハ中ト以ク心ト明。佛道ハハ終ト以ク心ト
 了ト以ク心ト。始中終々。天人地ノ三教ト立ト。理
 氣質ハ別ト。皆一隅ト。後ノ道也。
 若一隅ト以ク道ト。三教共。誤。三教ト
 統テ考レバ。則一ノ全体也。神道ハ宗源唯一ト立。儒ハ
 一貫ト以ク佛氏一念三千。三千一念ト説。皆是天理混沌
 ハ一ノ始中終ト。説也。天理ノ外ハ。何ハ極樂。何の
 神佛ト。んや。神儒佛教異ト。理氣合一ハ。實
 ト全ト。本心ノ實ト。吾ニ得ト。外ハ道ト

名ものり。若其本と忘末とみく放心一實の理一
叶も人び三教共道とつては。是三教の教と立
たぬ。

○問曰。吾國ハ神國なり。神道廢之。皆佛道ニ成事如何

答曰。凡道と名もた廢之れ。されど時乃勢により
て盛衰ハ異なり。神道廢皆佛道よりなり。つよハ何
ぞ。夫吾國ハ神國と稱す。ゆへに天照皇太神より
尊不合尊より。地神五代の間幾千万歳神德盛
行。神風既淳く治より。神國と稱す。ゆへに神

武天皇よ及神德漸衰ゆへに。人皇と稱次。ゆへに神
德の餘風良残て。世朴民直ゆへに。人皇北代。允恭天
皇より。千百年有余無為ゆへに。治より。第北一代安
康天皇。弒せられたるゆへに。後天下靜謐あり。第北代
欽明帝ハ時佛法百濟國より東漸。三十四代推古帝ハ時
聖德太子撰政。ゆへに佛法と擴多。天下ハ政より。
是より佛法。弥盛あり。神道弥衰故。推古天皇ハ詔
よ。朕聞之。曩者我皇祖天皇等。宰世也。天よ。踏地。踏
神祇と禮。周山川と祠。幽。乾坤。通す。是より。
陽陰開和。造化共調。今朕世。當て。祭祀。豈怠と。何及

や。故に羣臣為よ心と竭して宜神祇と拜すべしとの
たしなり。此詔して佛法の盛なりと神道に衰ふ事考
知る。其後佛法盛に行也。第四十五代聖武天皇伽藍
建立に敷願のりとしども猶神國に遺法と恐るる
て行基菩薩の仰て其効験と伺はるる爰に行基菩
薩太神宮に參籠し祈禱して神告曰實相真如日輪
ハ生死長夜の闇と照本有常住月輪ハ無明煩惱の雲
拂此文句面の詞ハ佛法に似ゆり句中に意に到てハ神代
ハ昔日神天の磐戸と開て彼長夜の闇と照し月神
ハ重ハ雲と別て此葦原に中國に降るる是則無明

煩惱の雲と拂はわする。然る佛像伽藍御建立は是
非其告未詳なり。故に天平十四年十一月に右大臣橘
諸兄公の仰て勅使を遣はして伊勢太神宮に參りて天
皇御願寺建立する由と祈るる爰に件に勅使歸
參代後同月十五日に夜示現しるる皇帝御前より玉女
坐して金光と放て宣く當朝神國に神明と欽仰し
奉つしゆゆ之。而る日輪者大日如來也本地蘆舍那
佛也衆生者此理と悟解して當に佛法に歸依すべ
しと云夢覺たしめて後弥堅固道心しるるゆゆ始
件に御願寺に企むる東大寺是也天平十五年癸

未十月小創て大佛の像と作りしむ。是より并し州
 國分寺と建。又始て州國分尼寺と建。皇
 后と光明皇后と申。皇后も西金堂と興福寺
 營。又法華寺と建。聖武皇帝天下と治。高野
 二十五年。天位と御女高野姫。禪。高野
 姫御代と受。孝謙天皇と申。是第
 四十六代女帝也。御母光明皇后と申也。勝宝元年七月二
 日。小禪と受て。位。即。天下と治。十年也。時
 舍人親王子大炊王と皇太子と。御位と禪給
 後出家して。法名と法基尼と号。た。

第四十七代淡路廢帝と申。則大炊王也。天平寶字二
 年。八月高野天皇位と受。在位六年也。時高
 野天皇と廢帝と隙。遂に淡路國配給也。第四
 十八代稱徳天皇と申。則孝謙天皇御事也。孝謙天
 皇重祚と改て稱徳と稱。稱徳天皇元
 年。己巳。道鏡と龍幸と。太政大臣と。法皇乃
 號と授て。百寮朝賀と受。天下と治。五年。是
 法皇と。興。寶龜元年。八月四日。
 天皇崩。因て高野天皇と号。是より己來。宇
 多天皇圓融院華山院白河院。後白河院。後嵯峨院。

後深草院後宇多院伏見院後伏見院花園院後小松院皆位と禪て後出家しつゝの法名と御諱とたゞし是よりしてしんじ佛法弥盛よ行て神道弥衰と考知る。神道廢て仏道よ成りしよはわす盛よ行と行ざらるゝの異也

○問曰神ハ吾國ハ神明佛ハ天竺國ハ佛ハ人皇三十代ハ傳來セハ佛ト吾朝ハ神ハ本地ト二部習合ハ神道ト立ト如何

答曰夫佛法ハ釈尊より説始たり。釈尊ハ震旦ありハ周昭王廿五年ハ當て天竺よ生り。佛法震旦よ

入事。釈尊入滅の後千五百歳と歴あり。其後又四百數十歳とへく百濟國より欽明帝ハ時ハ傳來ト何吾朝ハ神ト天竺ハ佛ト一なりと云。然諸神ハ徳ト諸佛の徳ト相感して理一なり。以て附合するから。其盤觴と尋とハ欽明天皇より後十五代其間百廿三年へく。聖武皇帝ハ夢想ヨ日輪者大日如来也本地盧舎那佛也ト天照太神示現と云。ゆゑと起り。其後桓武天皇ハ時真言ハ密教始て本朝よ入嵯峨天皇ハ時空海帰朝し。真言法盛よ行り。當ハ知去天平小示現し。胎金两部ハ大日盧舎

那佛ハ一切諸佛菩薩ハ惣躰也。舍那乃生身ハ吾國の本
主日月兩神ハ尊形己ハ明鏡者乎。故ハ顯密ハ二儀ト
設本跡ハ二門以立宮社ハ縁起ニ隨テ相應ハ諸尊ト
以ク本地垂跡ハ差別ト稱ト。顯密ハ二儀トハ一ハ顯
露ハ顯佛ト以ク本地トシ。神ト以ク垂跡トシ。一ハ
隱幽之密神ト以ク本地トシ。佛ト以ク垂跡トシ。顯
露ハ顯佛ト以ク本地トシ。神ト以ク垂跡トシ。一ハ
以ク本地トシ。一ハ是淺畧ハ一義也。傳教弘法慈覺知
證等四大師真言ハ奧義ト極吾神道ハ密意ト悟リ。
大日本國代名ト得ク。大毘盧舍那佛ハ實地ト覺リ。

神代ノ書籍ハ一ハ秘密ハ秘義ト設各一師ハ神
道ト号ル。皆胎金兩界以ハ内外ハ二宮ニ習諸尊
ト以ク諸神ト合。故ハ兩部習合ハ神道トシ。一ハ
一ハ以來顯密ハ諸宗神道ト入テ。未書以述者。其數五
百余卷。故ハ是ト本師流ノ神道トシ。一ハ真言ハ顯密
ト以ク。一ハ神道ハ顯露隱幽トシ。一ハ理也。昔高皇
產靈尊天孫降臨ト催ル。時鹿嶋揖取ハ二神以
御使トシ。大己貴ハ神ト。勅曰。夫汝所治顯露之事。
宜是吾孫治之。汝則神事以治トシ。大己貴神報曰。
天神勅教慈懃如此。故命ト不從乎。吾所治顯露事ハ

無量ハ私欲出^ル或各^々或驕^ル或上^ト僭^ス下^ト輕^ス
或々父^ト弑^ス君^ハ弑^ス皆是^レ起^ル故^ニ今^ニ
俗^ハ氣^ト治^ル法^ト敗^ル亂^ス氣^ト
古^ハ人^ハ面^ハ歎^シ心^ハ悔^ム人^ハ中^ニ入^ル國^ニ
土^ハ亂^ス氣^ハ分^ル治^ル國^ニ主^ト治^ル世^ハ道^ハ
三國^ニ小^ニ教^ト立^ス一人^ハ君^ト正^ス肝^ハ要^ト先^ハ吾^ハ國^ニ
伊^ハ許^ハ諾^ス伊^ハ許^ハ毋^ク尊^ス御^ハ宇^ハ宙^ハ珍^シ子^ト生^ル人^ハ天^ニ照^ル太^ニ神^ト
と生^ル此^ハ御^ハ子^ハ一^ニ全^ク休^ム受^ル德^ハ光^ル天^下に^光
華^ハ父^ハ母^ハ神^ハ大^ニ悦^ム天^下に^君也^ト万^民
と治^ル其^ハ德^ハ化^ル天^下無^ク為^ル治^ル

震^ル且^ニ小^ニ聰^ク明^ク教^ハ智^ハ人^ト奉^テ億^兆の^君師^トて
治^テ教^ハ伏^シ義^ハ神^ハ農^ハ黃^ハ帝^ハ堯^ハ舜^ハ是^レ也^ト堯^ハ舜^ハ天^下に^と
帥^ハ仁^ト以^テ民^ハ從^ル桀^ハ紂^ハ天^下に^と帥^ハ暴^ト以^テ民^ハ從^ル
小^ニ頻^ク年^ハ冠^ス疫^ス穀^ハ貴^ク民^ハ困^ル我^ハ常^ク以^テ安^クん^ニ惟^ニ
願^ハ要^ハ法^ト垂^テ示^ス佛^ハの^言大^ニ王^ハ若^ク煩^ク惱^ムと^滅
欲^ハ當^ク木^ハ穗^ハ子^ハ百^ハ八^ハ箇^ト貫^テ常^ク自^ラ身^ハ隨^テ志^ス
心^ハ南^ニ無^ク佛^ハ陀^ハ南^ニ無^ク達^ハ磨^ハ南^ニ無^ク僧^ハ伽^ハ若^ク稱^テ千^ハ万^ハ遍^ス
一^ハり^ハ百^ハ万^ハ遍^ス滿^テ百^ハ八^ハ結^ス業^ト除^ク常^ク樂^ト獲^テ
答^ハ佛^ハ家^ハ諸^ハ宗^ハ皆^ハ念^ス珠^ト持^テ然^レハ^ニ三^ハ教^ハ共^ニ

一。教と天下の君の傳は本意しするにわづらふ。夫神道
 の教は清淨と未て不淨は後と教は不淨は陰陽
 の愛氣の濁して一元は神の歸るは氣質の
 儒道は己は克て禮は復るは教は己は氣質の
 偏は陷て天性は歸るは心と則下愚と名也佛道は
 煩惱と滅しと故心を得て教は煩惱と貪欲と
 溺て故心は歸るは心と則凡夫と名也惡魔と心は下
 愚と心は凡夫と云は皆是實は欲は抱て理氣は一は歸
 るは心は復也。不淨の惡魔と教は天神明留座と下愚
 は己は勝は礼は復本性存す凡夫は煩惱と滅すは故

心は佛躰と云は後と心は克と心は滅と心は皆實は
 偏塞と去事也神と心は聖と心は佛と云は中躰は實
 一は歸ると云は中と得るは理氣實は三は成て
 一は全躰は歸せずは心は心。然則三教皆實は
 愛と正と心は本心と直と心は心。本心直則身修と則
 家齊と則國治と則天下太平也。是三教共は治世の
 道小わづらふ。時は和漢共は。天竺は佛法盛は行は。釈
 尊は所謂正像末は三と立は。末世は到て吾道東漸
 んと云は心は欲震且少は。後漢吾朝少は。欽明
 帝は時と事始は。漸は盛也。上古小は。上は神聖は

下小賢人君子なり。末世に及て。上は神聖あり。下は賢人君子なり。且中人以上の質をすくなく。中人以下の人多く。中人以下の人々。愛と好く。常以て忘怪と重く。信以重く。信は重く。信は重く。中人以上は。上と語へ。中人以下は。上と語へ。孔子は。乃の語へ。神儒は。二教は。君臣父子夫婦昆弟朋友は。五倫と本。中小は。夫婦と以て。道と行の端。致知格物。て。己の誠と尽。己の誠と尽。人物は。誠と尽。天地は。化育と賛て。天地と参。成也。是中道は。誠を得て。天の理氣は。帰て。教は。次則常と以て。質と正。道也。佛

氏は教は。あつ。君臣父子夫婦昆弟朋友の五倫と離て。出家と号。中小は。夫婦と絶と以て。道は。行の始。五戒と立。奠肉薰酒と用す。三世と説て。吉凶の轉變と止。因果と以て。禍福は。得失と定め。生と軽。死と重。方便譬喩と。説て。煩惱と滅。則て。質と以て。質と正。乃の道也。質と正。否。煩惱皆離。菩提心とかり。故は。煩惱即菩提と。菩提心は。心の本心寂滅あり。天理の真は。帰て。真と以て。行。諸惡莫作。衆善奉行。物各其性と得て。天下太平あり。君

王是と用て色欲貪欲うすく慈悲自生也衆庶是と
聞て未来と恐太惡自休是常と離て市中に歸道
非や神ありとも儒ありとも佛ありとも上一人清淨あり
天理の實と得られ天下國家治すといふことあり
故よ三教共よ治世の道といふことあり夫吾國ハ天照皇太神
代國ありて天子其統派受継るもの民は是天照皇
太神代民ありて天皇の徳化と蒙るもの吾國
の教唯一神道と尊ん志として第一の事とすべし唯一
神道ハ血脉と申ハ天神伊弉諾尊天照太神正哉昔
勝尊天兒屋命雲海龍尊王也然ハ天兒屋命ハ天

照太神より直授相傳殊に神事宗源と掌との
ゆへに代々相承して二十一代太織冠鎌子まで
相傳まり太織冠の時入鹿乱と興りより從父昆
弟伊日磨よ附属するもの神事龜トト事と傳
るもの伊日磨代家今トト部家也故よト部と神道
長上といふ急トト事と今に主するもの其兒屋命
ハ口傳直授るもの即中臣代我也中臣代我と天人合一
の後るもの天地に建て悖らば神明は質して疑
あるもの身よ本て庶民に徴あり古今一貫の御後其
後舍人親王日本紀三十卷に撰するもの一二卷に

中臣此後よ本づいて天神地祇天人合一此道也。ある
 神代乃巻く名残了二十八卷ハ古今乃
 治乱とありし。太織冠啓白文云支善言
 養詞此解除ハ元祖天兒屋根尊此妙業素盞鳴
 尊此悪行と退け天照太神乃天代岩戸と開て。日
 夜の分と通六合よ満しめ終ふも此神能此起あり。
 然バ人皇三十余代までハ家國の群生皆悉く後代
 以て三世成立して遂は外國乃力と備さるるものこ
 世漸く漢季よ降了。人代心妄めして正と疑ひ邪と
 信し。元と妄りて末と亂る。茲よしりて既戸皇子

始て儒釈道乃三教と立て衆生應化此方便と漢
 是ハ全く異國此傳法也とりり。今代時や天
 下泰平國土安穩ありゆへ。神儒佛此三乃道並行
 る。苟よ孔夫子曰道並行而相悖らず。小徳と川
 流し。大徳ハ教化すといふも此後今也其人と師
 て。中臣神代唯一乃道此相傳と受らる。天地未分
 此一本と天地已分此万殊と唯一よ歸することと曉了
 天地此神と吾神と同体あり事とよく考て。中道
 代理よ叶ハ本分實と得ずと云事あり。何異朝
 の傳法とやんや。嗚呼吾國よ生て。吾國此道と

〇問曰。上古よハ風雲よレテ。虚空に飛行。不老不死
 此仙人と云ふ人あり。中古より。仙人あり。其故ハ如何
 答曰。天地ノ間。人間禽獸草木。生るいけるも。此
 皆神ト具氣。氣はく質也。中かもの人の万物の
 生るは。天地の氣に全受也。上古は世朴。民淳く
 して情欲なき。天命の真氣よく備る。故
 神明仙人聖人佛と云ふもの多。支神聖ハ。天地混
 沌の二氣主として。日月と明と合。陰陽と氣と齊し。
 四時造化と行と一也。天地と共。政と行る人

也。佛ハ混沌の終と曉。五倫と離。世界に穢土と悪
 陰陽造化。逆氣音よる。五塵六欲と名。五塵六
 欲。心は煩。惱す。煩惱と名。煩惱と捨く。本心は帰
 と。佛心と云。衆生と離て。衆生は渡す。仙人ハ混
 沌未分。二氣根。陰陽の未發と未て。已發は捨。天
 下國家の安。古は願。是非得失と忘。神は無為。天
 郷に遊。心は恬淡。乃疆に安。陰陽と共。呼吸
 して。真氣は丹田。養。飢渴と離。若飢渴するも
 八方木花實とく。千草の露と掌。身自輕
 風みり雲に上る。いにも混沌に心。先陰は送る

今よ其形残るるの醫術也。されど當時の醫者ハ黃
 帝岐伯ハ天真以養未病と治して已病と治せばと
 る根元と味く漸中興東垣河間。藥方以求るに
 して望聞問切切切。陳無擇ガ三因乃方論と考
 と疎して方と立本より吾儒にあらずんと醫もた
 らばと云ふ。朱丹溪ガ心と云ふ。喻比。只名聞利要
 未ガぬりよ。茶と施偶病と治し。皆是詭遇耳也。嗚呼
 衰哉孔子ハ南人有言曰。人として垣なくと巫醫
 作らざる信哉。のさるる。凡人間は信を絶て人
 ハいさひも別て神明はける巫と。人の壽と預る。醫

者といハ入信るべ叶ざるものなり。今世の醫師ハ
 多ハ垣なき人也。信あり醫者らもさるる。吾未具と見ら
 欲さるひひか。今世ハ生るるも。名利と離れ我
 忘黃帝岐伯ハ論以玉支。天人合一理。陰陽造化
 流行と考て。實ハ一理体と味。茶と施と。上古ノ
 神仙ハ及らば。己ガ氣と養。人の病と治す。こと
 こと。及らば。己ガ氣と養。人の病と治す。こと
 況や風ハ其の雲に上る。仙人ガ此とてことり
 ○問曰。大道ハ外ハ妙と云ふ。何らにわらず。道ハ至極
 答曰。大道ハ外ハ妙と云ふ。何らにわらず。道ハ至極

到て。妙といふものあり。夫正道は不可思議と妙と名
 け。邪路の不可思議と怪と名也。今人其分を以て常
 奇怪とす。皆妙といふ。大方の誤也。正道は不可思議
 妙といふ。天地未分。陰陽不割。渾沌如鷄子。溟滓含
 牙。其清陽者。薄靡為天。重濁者。淹滯為地。精妙之合
 と。搏易と。舍人親王のいふ。妙は始に説也。詩云。予
 懷明德。不天聲。以色子曰。聲色之於化民。未也。詩曰。德輶
 如毛。毛猶有倫。上夫之載。無聲無臭。真至矣。子思の
 由ふ。妙は終と云也。道可道。非常道。名可名。非常名。
 玄之又玄。衆妙之門と。老子のいふ。妙は曉の教へ

と云也。然と妙は大道は始終あり。隱幽の根元也。日輪
 は陽徳圓滿は光とわけて。昼輝と日。妙。月輪の陰徳
 盈具は光とわけて。夜照と月。妙。人も天地の神を同
 体と受て。生は人の妙。道は至極。既曉て。仰弥高
 鑽と弥堅。是は以て瞻。亦不在とす。忽焉とて後
 によりて。形容とて。妙と名。是常道
 至極也。常道は古今不易。道多れ。人皆妙といふ
 こと。道の外は妙と求む。思ふ。事其甚也。古
 神明。聖賢。仙人は妙と。皆道は至極。實は到る。
 實は外は道とわく。道の外は妙とわく。一は全体の理と

体認す。妙取。神明此千萬
 歳無量。仙術の不老不死。風雲上乘も。一理の妙躰。
 真神の實と。得の徳也。一。事。真。實。備。の。
 必妙あり。昔天津彦火瓊杵尊日向代音田長屋
 笠挾の碕に到り。時鹿葦津姫以娶て一夜の
 間。何娘とわらんやとの。姫恨。多。言。
 明を。無戸室と作て。其内に入。
 妾所娘若天孫。必。天孫
 此。室。室。室。

七年。大旱。乃社稷神。求。雨。亦。
 湯曰。社稷神。是。是。是。
 堯。神。宜。除。
 人。を。焼。て。天。神。と。祭。
 此。大。旱。今。更。一。人。と。焼。て。天。と。祭。
 願。と。天。下。均。く。雨。次。は。沐。
 殿。亦。小。柴。積。天。子。自。柴。
 勢。漸。逼。忽。然。雲。起。雨。下。て。火。乃。滅。
 と。存。て。得。天。下。咸。蘇。仰。て。天。子。の。徳。と。戴。也。

貴介問答者公子與先生道心人心惟一
 之議論而高天原欲令留於神明之問答
 也先生姓源氏甲賀名頰益字秀實號伯
 菴亦稱杏隱子其性質寬博謹慎不求名
 聞不慕榮利廣通神儒佛之三教最深信
 吾國之神道不執善不捨惡執其當然託
 躬於鴻方而博濟衆病焉往昔干公門有
 衆工束手之難疾而召先生先生察其因

診其脉施藥獲功而病自愈公門欣然感其神速欲叙法橋先生固辭然竟達天聽叙法橋義譽芳聲震乎幾内也今為此書也第一論脩身齋家之受用第二舉神明天上之德化第三記人皇中國之政刑第四明異朝儒佛之東漸第五曉唯一大道之妙用皆是一本万殊々々一本而務本之意嗚呼可謂盡矣苟体用一元顯微

無間之理顯然可考之小子記此問答予請不以真名而以假名記之不啻為諸生庸常之人讀之欲令容易讀之者再三反覆則天地混沌之一理乾坤流行之万殊及古往今來之治乱齊家脩身之經要皆原唯一之實開卷可自鑑矣先生論道教久之仁心可謂魁偉者也予感其功而跋之云尔

門人林玄悅

元禄三庚午年孟春吉辰

武村三郎共造

同新名衛

寺田与重次

梓利

信
山
口

7

